

I. 直江兼続公伝世館と銭淵公園の概要

1. 施設の概要

【直江兼続公伝世館】

南魚沼市は、戦国の武将「直江兼続公」生誕の地であり、平成21年の大河ドラマ「天地人」の舞台として、テレビ放映を契機に全国から史跡見聞や自然を楽しむために多くの観光客が訪れた。

直江兼続公伝世館は、これらの観光特需に対応すべく、新たな観光施設として、直江兼続公に関する資料を収集、保管及び展示をし、広くその活用を図り、市民の郷土に対する認識を深め、文化の向上と地域観光の振興と発展に資することを目的に平成21年1月に開館した。

当該施設は坂戸山の麓にある銭淵公園内にあり、直江兼続公の生家をイメージした資料館である。建物は、市内に現存していた古民家を移築し、坂戸城のジオラマのほか、甲冑や槍、当時の暮らしぶりをうかがえる家財や文書などが展示されている。

施設情報	・所在地	南魚沼市坂戸393番地
	・敷地面積	361.80㎡
	・延床面積	137㎡
	・建築年度	平成20年度
	・建設事業費	37,947千円
	・施設平面図	別紙1

【銭淵公園】

銭淵公園は平成2年に認定を受けた「魚野川ふるさと川整備計画」に基づき、河川改修によって区切られた銭淵とその背後に迫る坂戸山を活かした水辺の公園として整備された。

この公園は、坂戸山が山城であった歴史的背景と現況の地形を考え、日本庭園風とし、公園外周にはお城のお堀をイメージした水路、そして園内には水の流れを彷彿させる水字形池を設け、春から秋には市内外から多くの人を訪れる憩いの場となっている。

施設情報	・所在地	南魚沼市坂戸
	・面積	5.65㍍ ²
	・主な施設	城堀川 170m
		水字形池 3,300㎡
		遊歩道 1,050m
		芝生広場 6,450㎡

- ・ 供用開始 平成8年度
- ・ 建設事業費 1,640,000千円
- ・ 施設平面図 別紙2

2. 運営主体

【直江兼続公伝世館】

開館以降、市が業務委託契約している公益社団法人南魚沼シルバー人材センターが管理運営業務を行っている。業務内容としては、入場料の管理、物販商品の販売及び売上金の管理、入館者への管内の説明、管内及び周辺の清掃等である。

【銭淵公園】

市が業務委託契約している公益社団法人南魚沼シルバー人材センターが公園管理をしている。業務内容は、清掃、除草、植栽、防除、整地、トイレ掃除、雪囲い等である。

Ⅱ. 観光施設としての直江兼続公伝世館と公園としての銭淵公園

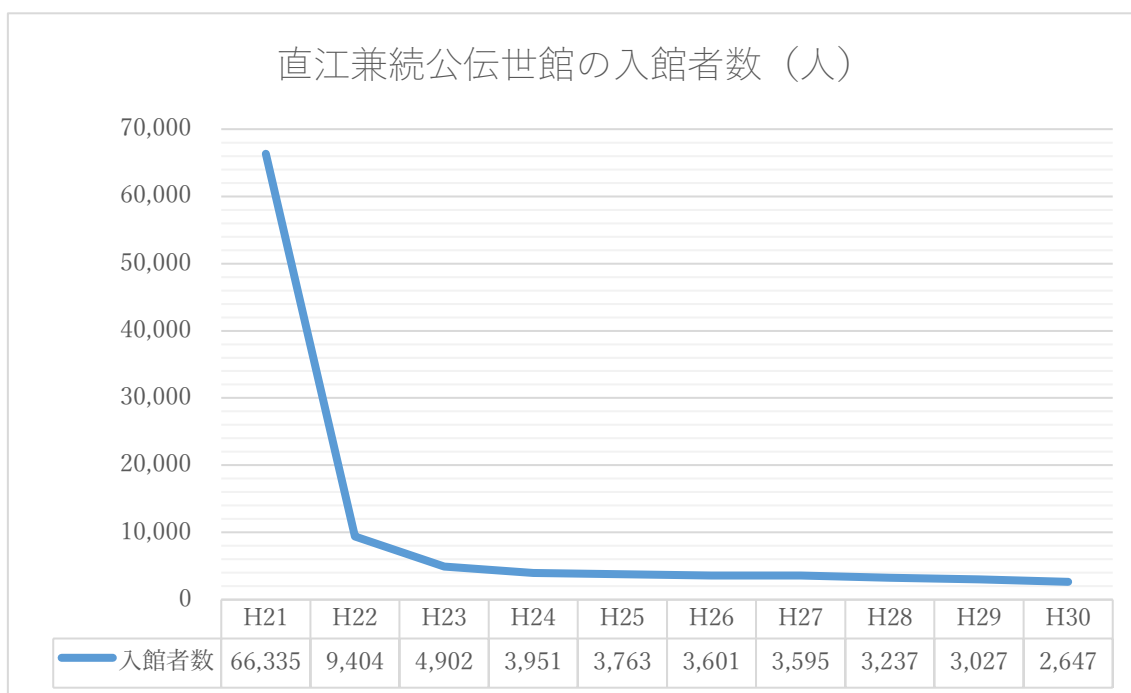
1. これまでの経緯と検討会議設置の目的

直江兼続公伝世館は、郷土の偉人である直江兼続公に関する学びの場を提供する施設として整備すると共に、近隣にあるゆかりの史跡を含め誘客を拡大する観光施設として整備された。平成21年1月に開館して以来、延べ入場者数は10万人を超えているものの、大河ドラマが放映された平成21年度の約6万人をピークに年々減少傾向にあり、今後、老朽化していく施設・設備への維持費に比して、入館者が伸びる要素が見当たらないことから、施設の更なる利活用について検討する必要がある。

また、銭淵公園についても、大河ドラマが放映された平成21年度からアフター天地人開催後の平成23年度までは、年間2万人を超える来訪者がいたが、それ以後は1万人強とはいえ遞減傾向にあること、また、老朽化した太鼓橋の架け替えをはじめ、トイレなどの施設も経年劣化による改修等を要する時期となっていることから、今後の設備維持もあわせ活性化について検討する時期であった。

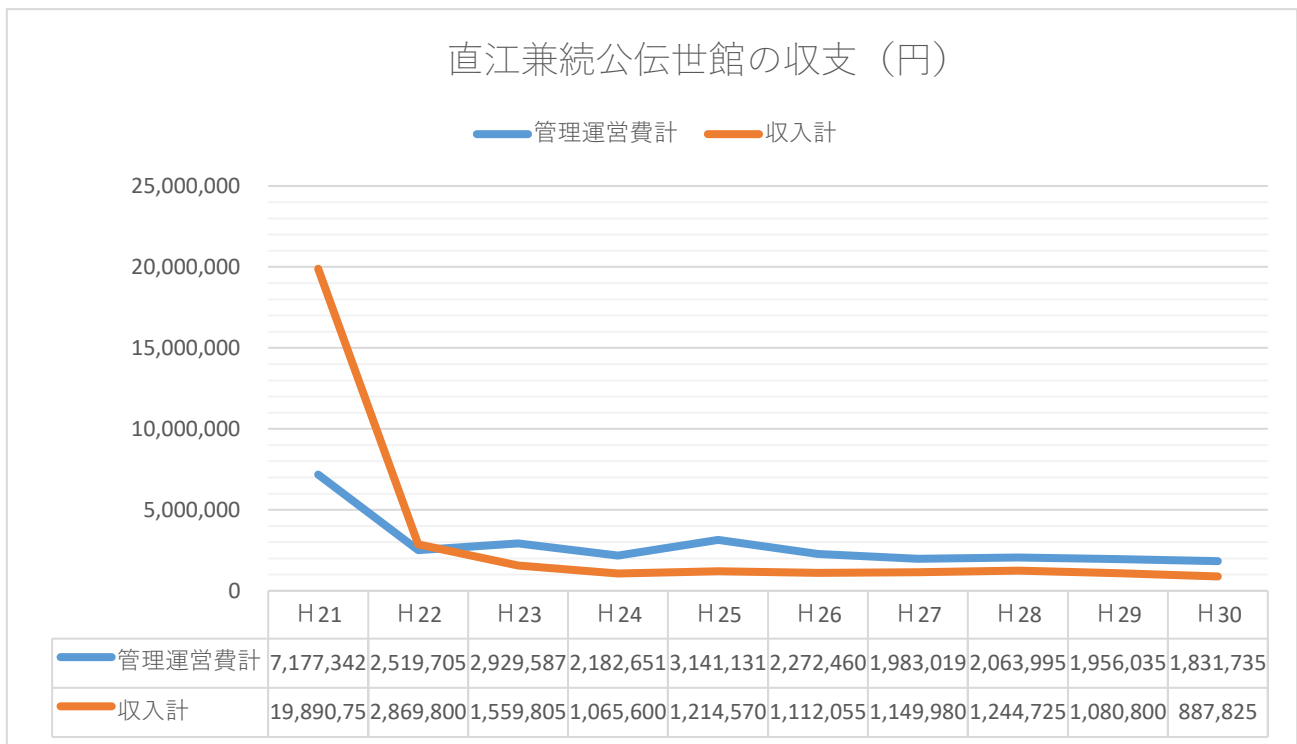
以上のことから、平成30年6月に直江兼続公伝世館利活用及び銭淵公園活性化検討会議を組織し、将来に向けた施設の在り方やその利活用方法について検討を進めることとした。

2. 直江兼続公伝世館の入場者数の推移[図表Ⅱ-1]



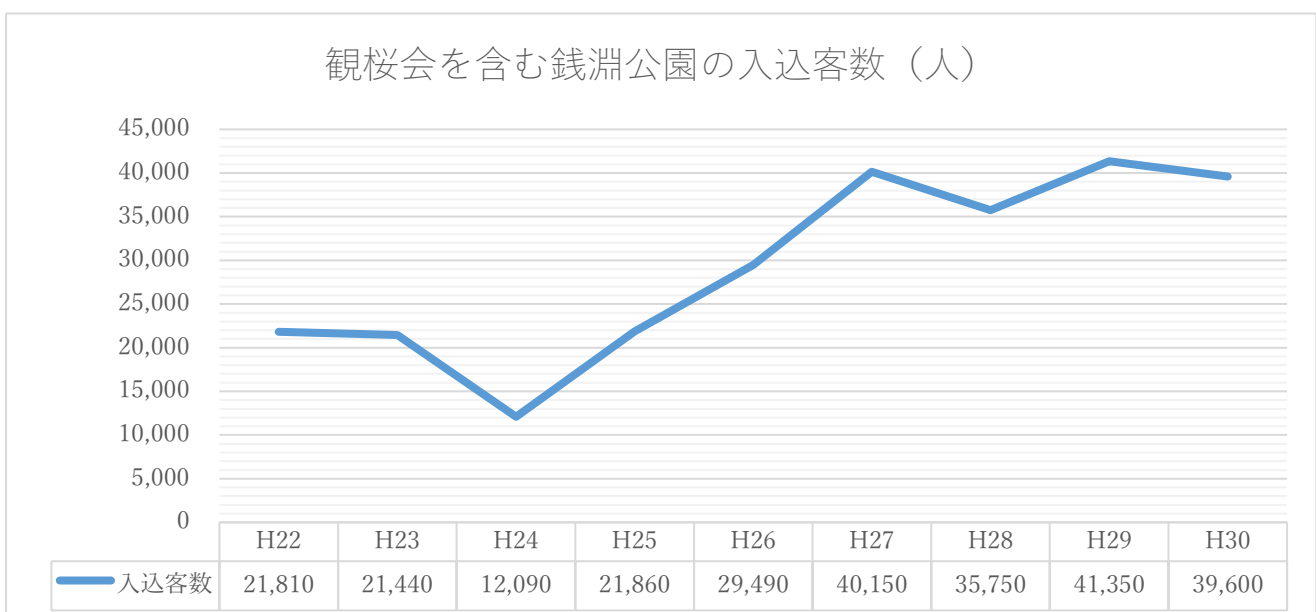
※開館期間 4月～12月

3. 直江兼続公伝世館の収支の推移[図表Ⅱ－2]



平成21年度と22年度は収入が支出を上回っていたが、平成23年度以降支出が収入を上回っている状況が続いている。

4. 銭淵公園の入込客数の推移[図表Ⅱ－3]



※開放(入込客数カウント)期間 4月～11月

※平成25年から観桜会開始

Ⅲ. 直江兼続公伝世館及び銭淵公園の課題

1. 直江兼続公伝世館の入館者数減少に伴う収支

図表Ⅱ－２中の伝世館の収入は入場料と書籍販売のみであり、大河ドラマ放映から10年が経過し、年々、入館者数の減少に伴い収入も減少している。一方、支出は施設管理等の委託費や役務費、また積雪量等で変動する除雪費や臨時に要する修繕費などの負担が毎年あるため、収支については平成23年以降、毎年約100万円から200万円程度の赤字になっており、全く採算が合わない状況である。そのため、今後の施設の維持等とその費用対効果について検討する必要がある。

2. 伝世館に対する市民の声

開館して10年が経過するが、地元でも認知度が低く、観光施設として誘客をしていくには、現状の展示内容や運営状況では限界があるとの市民の声が以前からあった。そのため施設をこのまま継続していくか、飲食店やアンテナショップ等のように用途を変更するか、あるいは廃止するかを施設入館者等の満足度やニーズを見た中で検討する必要がある。

3. 銭淵公園に対する市民の声

銭淵公園の利用者から、雨が降った時にしのぐ場所がないことや日影が少ないこと、休憩スペースが少ないこと、太鼓橋等公園施設の老朽化、トイレが古い、多目的トイレがない、イベントスペースがない等の意見が多かった。これらのことを踏まえ、利用者の利便性の向上が課題である。

4. 立地条件

伝世館と銭淵公園は、周辺のディスポート南魚沼や坂戸城跡を中心とした数々の名所・旧跡があり、四季を通じて多くの利用者が訪れるものの、季節により利用者の駐車場不足の問題が生じていた。特に春のカタクリや観桜会の時期は、坂戸山周辺を散策する来訪者も増えることから、駐車場が足りていないため、駐車スペースの確保が課題となっている。

IV. 市民アンケートの実施

1. 実施の経緯

検討会議において、施設規模、機能、現状と課題を共有し現地を確認した。そのうえで、伝世館、銭淵公園の両施設について、検討部会を組織しそれぞれ別に重点的に平成30年8月まで議論を進めることとした。

しかし、議論を進めるにあたって、方向性を把握する必要があることから、利用者や周辺住民、観光客の利用状況や社会的評価、ニーズについて、アンケートによる調査を行うこととした。

2. 銭淵公園のアンケート結果

銭淵公園、伝世館それぞれについての認知度や利用頻度、利用する上での満足な点や不満な点、また今後に向けての変更(改善)点や要望について、アンケート形式で聞き取りを行い、結果724人から回答を得ることができた。

平成30年9月に市民向けに実施したアンケートの結果は次のとおりである。

回答者：724人（内訳：市民602人 伝世館利用者122人）

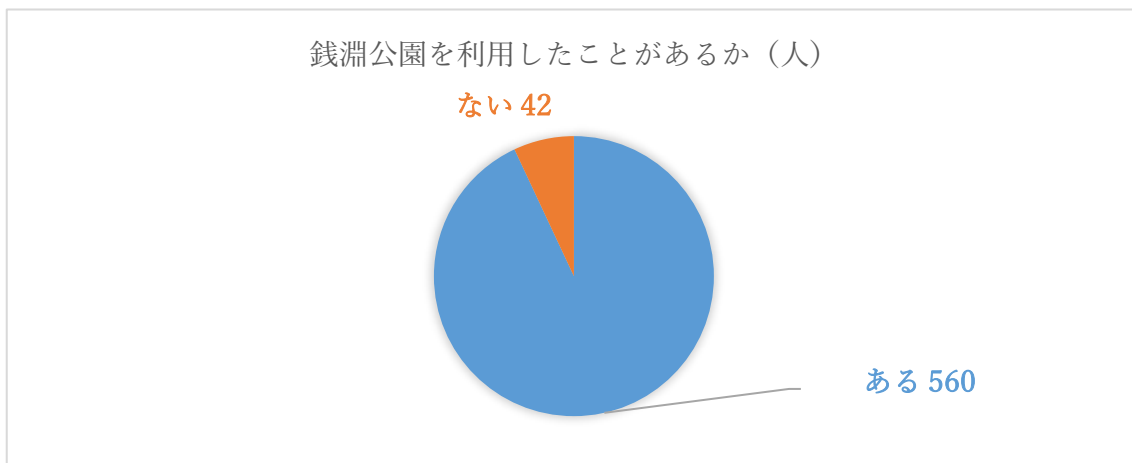
男女比 男性28.5% 女性66.6%

年代別 20歳代：10.2% 30歳代：42.5% 40歳代：16.9%

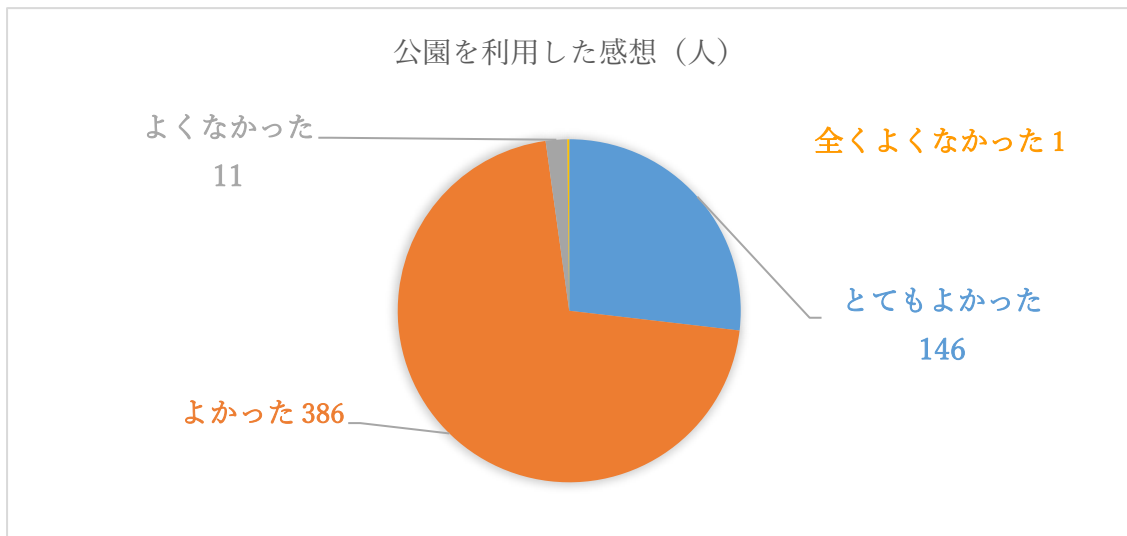
50歳代：7.0% 60歳代：11.5% 70歳代以上：9.3%

※伝世館利用者122人は伝世館についてのみ質問しています。

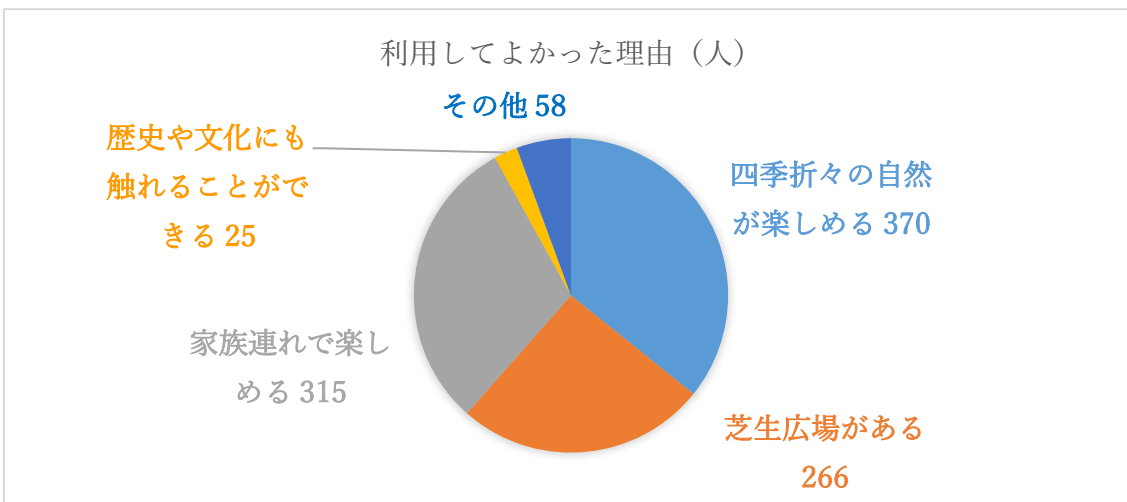
[図表IV-1]



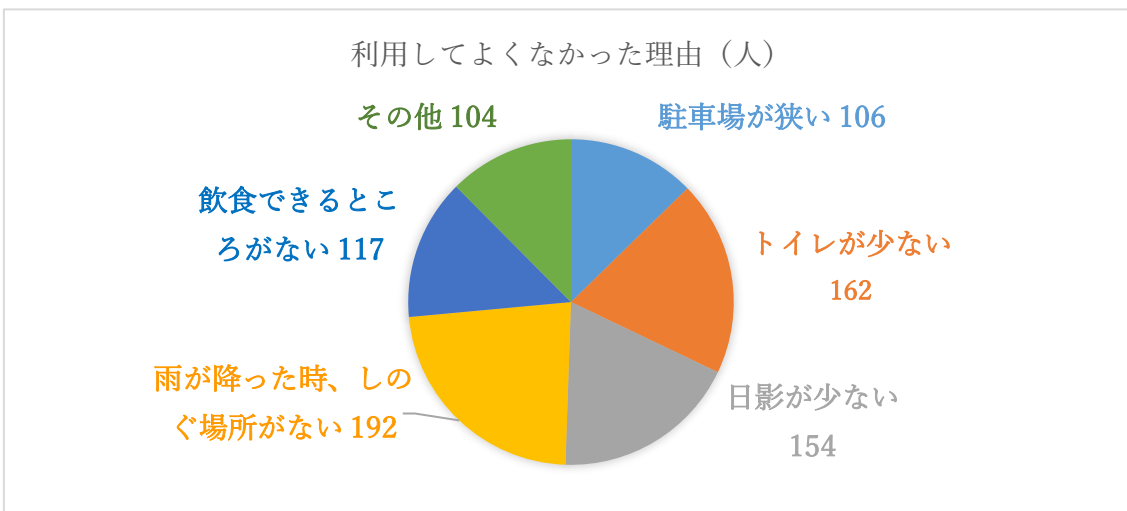
[図表Ⅳ－ 2]



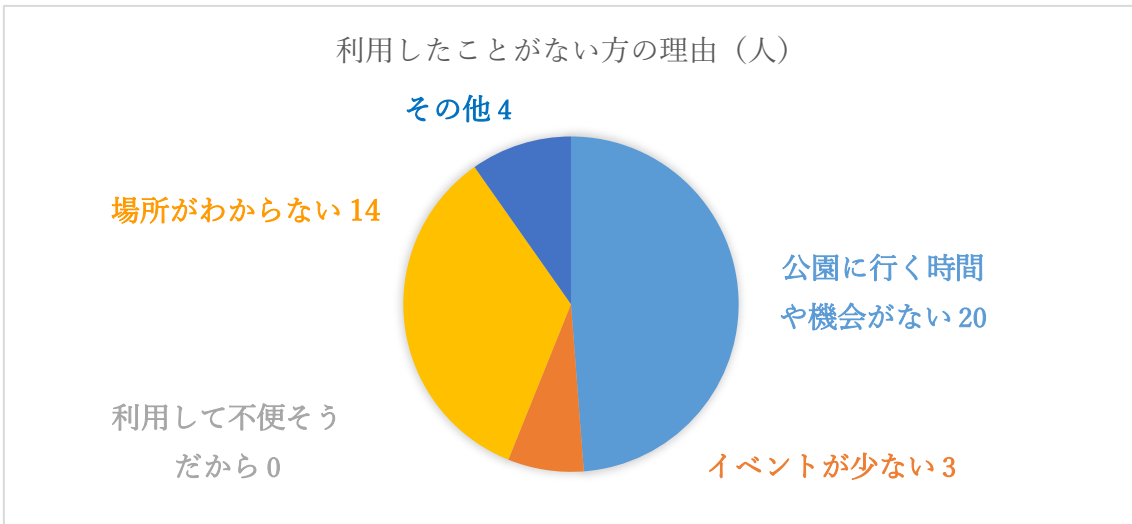
[図表Ⅳ－ 3]



[図表Ⅳ－ 4]



[図表Ⅳ－ 5]



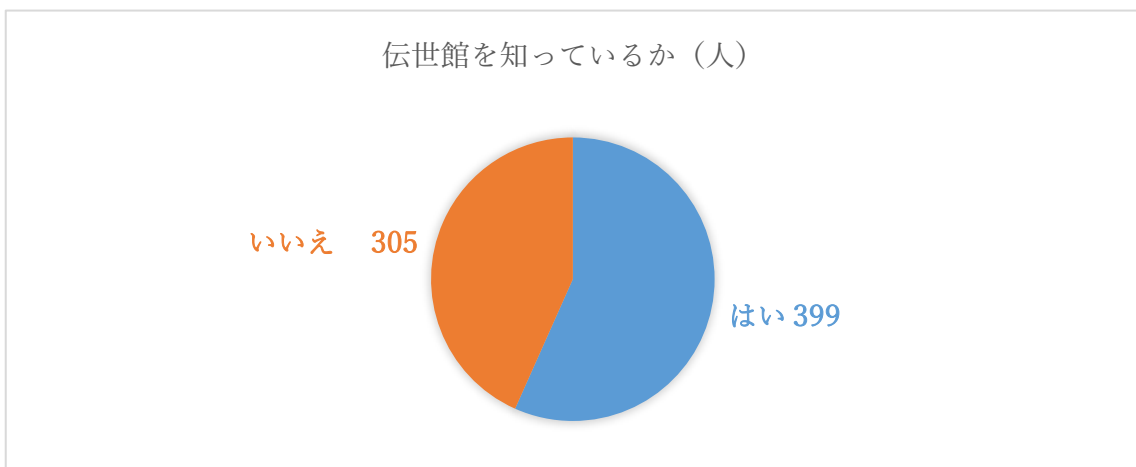
銭淵公園を利用したことがある人が全体の93%、利用者のうち98%が「とてもよかった」「よかった」と回答しており満足度は高かった。

一方、利用してよくなかったことは、①「雨が降った時、しのぐ場所がない(192人)」②「トイレが少ない(162人)」③「日影が少ない(154人)」④「飲食できるところがすくない(117人)」とほとんどの人がこれらの回答に集約されていた。

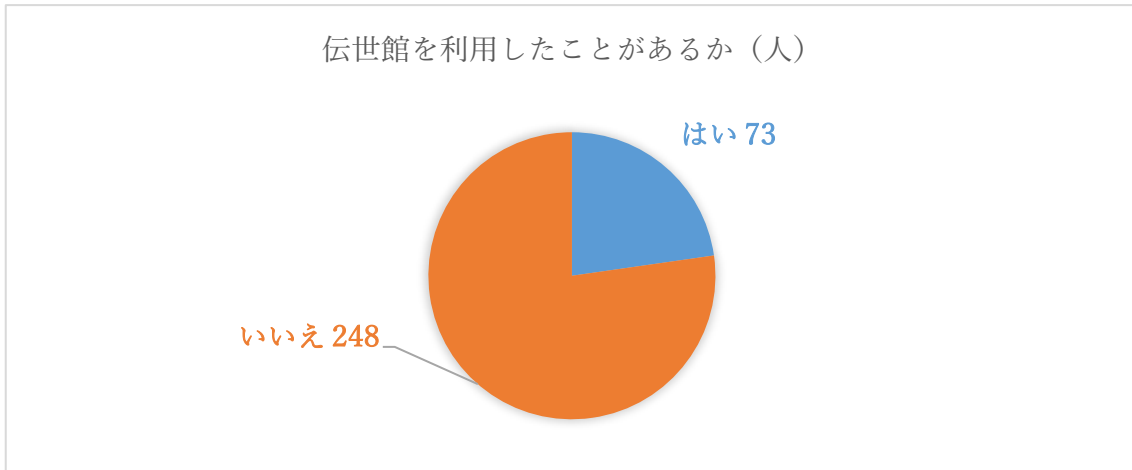
なお、意見・提案としては、子供が楽しめるイベント、四季のイベント、子供が遊べる場所の整備、飲食できるスペース、屋根のある休憩スペース、トイレが少ないなどの意見があった。

3. 直江兼続公伝世館のアンケート結果

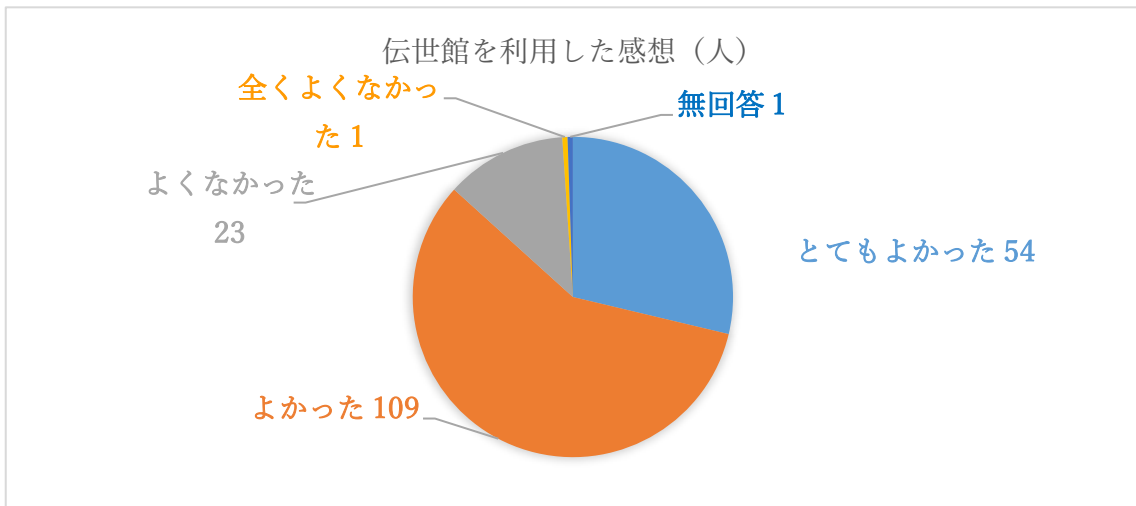
[図表Ⅳ－ 6]



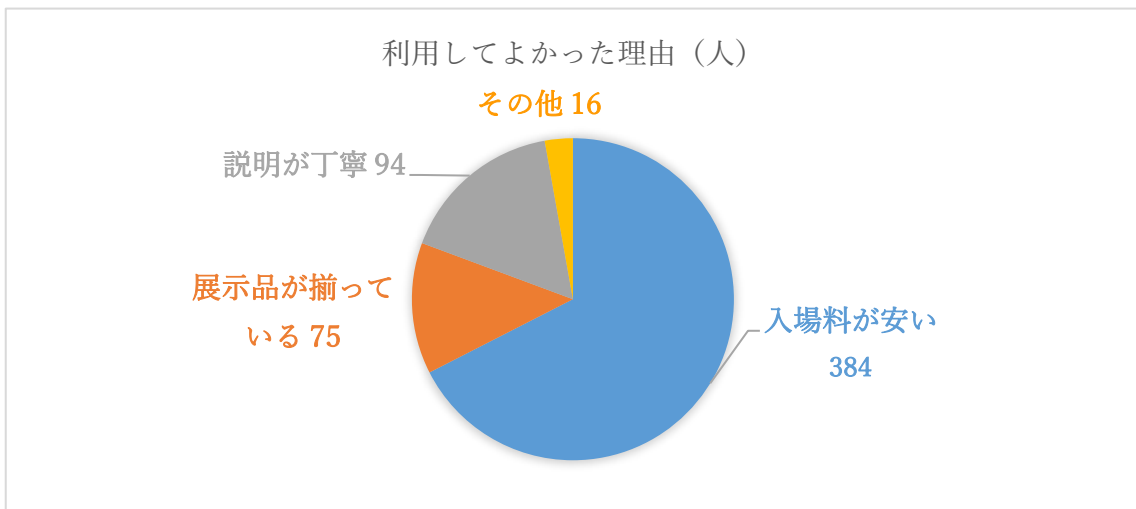
[図表Ⅳ－ 7]



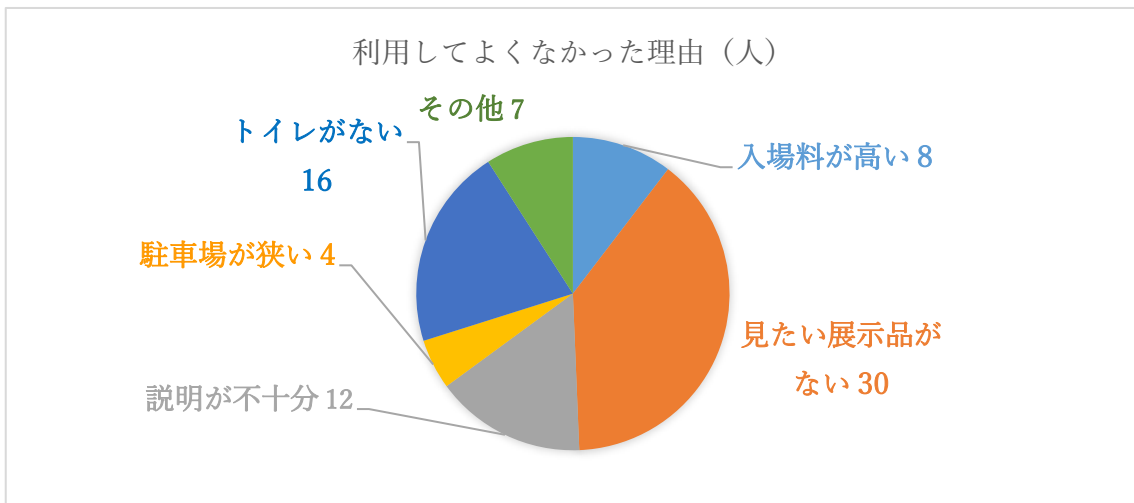
[図表Ⅳ－ 8]



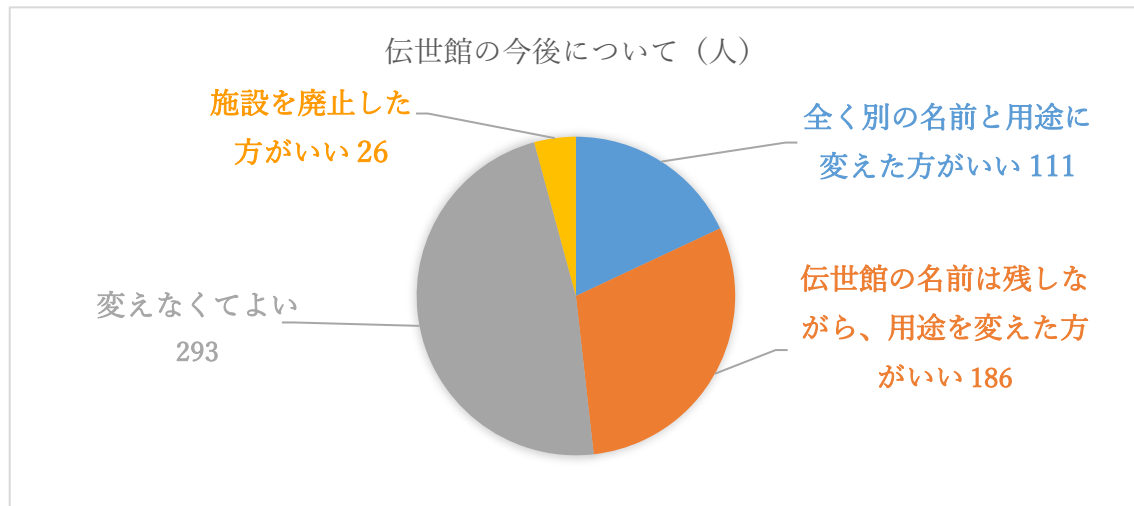
[図表Ⅳ－ 9]



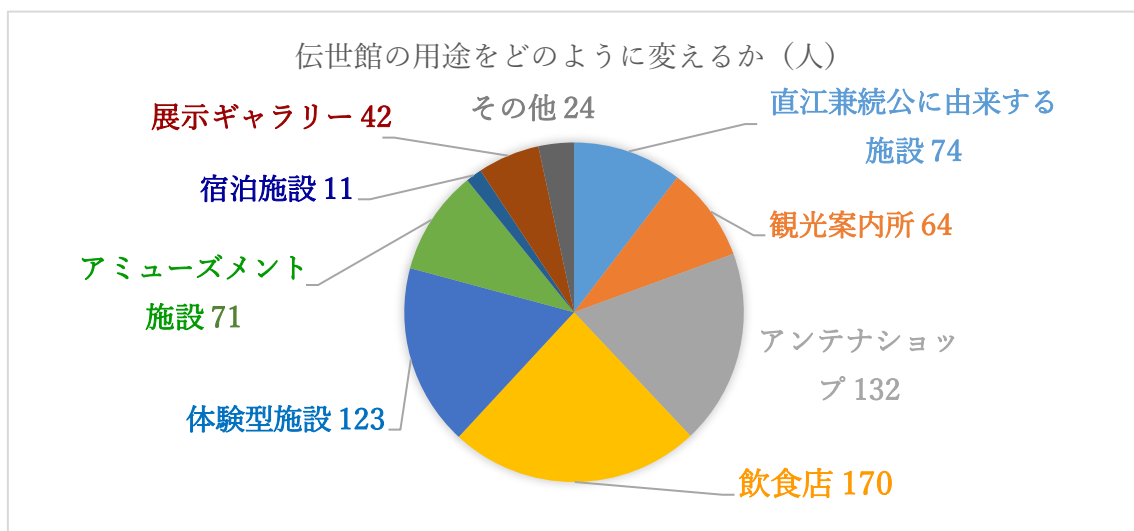
[図表Ⅳ－１０]



[図表Ⅳ－１１]



[図表Ⅳ－１２]



全回答者のうち、地元でも伝世館を知らない人が43%おり、利用したことあるかについては、回答者の77%が利用していないという結果になった。利用しない理由の一番は「見たい展示品がない」であった。

今後の伝世館の活用については、「用途を変えたほうが良い(297人)」の声が多く、「施設を廃止したほうが良い(26人)」という意見もあった。用途の変更内容は、「飲食店(170人)」が一番多く、次いで「アンテナショップ(132人)」、「体験型施設(123人)」と続いた。

V. アンケート結果に基づいた検討部会の意見

市民アンケートに基づき、各検討部会でそれぞれの活性化案等について、検討を行った。

1. 銭洲公園検討部会

【開催日程】

第1回検討部会	平成30年	8月13日	
第2回検討部会	平成31年	1月30日	計2回開催

【集約した意見】

- ・公園の景観を損なわないため、公園のコンセプトを崩さないことが大切。
- ・春の桜、夏のホタル、秋の紅葉、冬のかまくらなど、四季ごとに集客できる資源はあるが、まだ資源を活かしきれていない。ライトアップや雪の燈籠、仮設ステージなどでグレードアップを図る。
- ・景色のいいところに雨をしのぐ場所の設置が必要。
- ・駐車場不足への対応として、ディスプレイやサンライズと共用できる新たな駐車場を作れるか検討が必要。
- ・軽食や飲食が楽しめ、購入できる場所を確保。

2. 直江兼続公伝世館検討部会

【開催日程】

第1回検討部会	平成30年	8月8日	
第2回検討部会	平成30年	8月29日	
第3回検討部会	平成31年	1月31日	計3回開催

【集約した意見】

- ・展示品に魅力がなく、市民の利用も少ないことから、展示品については撤去。
- ・障がい者対応トイレの設置
- ・公園利用者も休める休憩スペースの確保
- ・飲食できる機能、スペースの確保
- ・市の特産品や小売り商品の販売できるスペースの確保
- ・独立採算により施設管理できる管理者の選定

3. 検討部会の意見に基づいた方向性

市民と利用者向けに実施したアンケート結果を踏まえ、検討会議や検討部会で確認した方向性は次のとおりである。

- ①将来にわたって市民及び観光客の憩いの場として継続できること
- ②伝世館の利活用とあわせて隣接する銭淵公園の活性化も検討する
- ③公園内のトイレは障がい者に対応できるように改修または建て替えを要する
- ④伝世館は既存の施設をリノベーションすることを前提とし、地域活性化につなげていく
- ⑤民間事業者による活性化の提案を募集する

VI. 利活用企画の提案の募集

平成30年度から、検討会議を5回、検討部会を5回行い、市民や利用者にアンケートを実施して方向性が見えてきたことから、直江兼続公伝世館の利活用についての企画提案を募集した。なお、今回の提案は、柔軟で自由な発想での利活用についての提案を求めることとしたことから、費用面については条件から外し募集を実施した。

1. 募集内容

既存の施設をリノベーションすることを前提とする。地域活性化につながることを目的とし。実現に向け取り組む意思があることと、市が実施したアンケートの結果により、市民、利用者の皆さんから要望の多かった下記の条件をすべて加味した企画提案とする。

2. 募集条件

- (1) 銭淵公園の利用者が休める休憩スペースがあること
- (2) 飲食できる機能、スペースがあること
- (3) 市の特産品や地場産食品などが販売できるスペースがあること
- (4) 障がい者に配慮した施設であること

3. 募集期間

令和元年9月2日（月）から令和元年10月4日（金）まで

4. 審査委員会

審査については、令和元年10月23日（水）午後4時より、南魚沼市役所本庁舎301会議室において実施した。

「直江兼続公伝世館」利活用企画の提案 審査委員会 委員

南魚沼市観光協会	荒川 正春
六日町観光協会	青野 広明
六日町商工会	今井 久夫
南魚沼市議会議員	目黒 哲也
六日町温泉組合	星野 輝征

企画提案候補者からのプレゼンテーション

1 者から企画提案書提出あり

企画名 日本一のコシヒカリ産地「南魚沼」ブランドを活用した観光施設のリノベーション（南魚沼産コシヒカリと地元食にこだわった飲食店展開）

企画の提案 審査結果

審査委員 5名中4名出席 合計100点満点

審査委員A 67点

審査委員B 75点

審査委員C 67点

審査委員D 65点

VII. まとめ

当検討会議は、開館から10年以上が経過し、入場者が減少傾向にある直江兼続公伝世館と経年劣化による改修等が必要な銭淵公園の施設について、現在の機能・規模などの状況を把握し、市民や利用者の社会的評価やニーズを踏まえた中で、将来にわたり有効に活用すべく今後の方向性について2ヶ年にわたり議論を進めてきた。

直江兼続公伝世館は、兼続公に関する学びの場を提供すると共に、近隣にあるゆかりの史跡を含めた誘客を拡大する観光施設であり、地域活力向上の促進を図ることを目的としていた。しかし、大河ドラマ放映から10年が経過した現在では、展示品の入替がないことや宣伝PRの周知不足のため入場者数の減少が続いており、観光拠点施設としての魅力も低下していると考えられる。

また、隣接する銭淵公園は坂戸城が山城であった歴史的背景を考え、日本庭園の景観をコンセプトにして整備されてきた。公園内には四季折々の自然として集客できる観光資源はあるが、年数の経過とともに利用者のニーズも変わり、観光施設に求められている機能も変化していることから、社会的要求に応えきれていないのが現状である。

当検討会議として、市民アンケート結果を踏まえ、検討会議や各検討部会で検討し、企画提案の募集を実施した結果の提言は次のとおりである。

- 直江兼続公伝世館の施設の用途を変え、飲食できる施設にリノベーションする。あわせて施設内にトイレを設置する。
- 提供する食材は地元食材を使用し、地元食にこだわった飲食店を展開する。
- 休憩・飲食スペース、市の特産品や地場産食品などを販売するスペースを確保する。
- 公園内の太鼓橋は令和元年10月に撤去し改修が完了した。
- 公園の活性化について、基本的には公園の景観を損なわないことを前提とする。四季折々の資源を活かし、ライトアップや雪の燈籠、仮設ステージ等でグレードアップを図る。
- 公園入口のトイレは障がい者対応した多目的トイレ、子供連れトイレ、男女とも増設したトイレに建て替え、利用者の利便性を考慮し、公園の景観に合うトイレとする。

- 公園専用の駐車スペースを確保する。また、土地を有効的に利用するため、伝世館に隣接する記念碑は移設することが望ましい。

以上をもって、当検討会議からの直江兼続公伝世館利活用及び銭淵公園活性化についての報告書とするが、可能な限り公共負担の継続を前提とせず、独立採算により施設管理できる方法を模索しながら、直江兼続公伝世館の利活用及び銭淵公園の活性化に取り組んでいくべきものとする。